

1978～79年度

R.I.会長の挨拶



クレム・レヌーフ
1978～79年度国際ロータリー会長



ロータリアンの皆さん：

世界の近い将来がどうなるかは、われわれの手中……他人のことに関心を持ち、他人のために奉仕し、他人に向って手をさし伸べる人々の手中にあります。ロータリアンとは奉仕のために双手を広げている人々、他人の生活を豊かにするために喜んでその手をさし伸べようとする人々のことであります。

ロータリアンは、奉仕の道を切り拓く開拓者として、この75年の間、単にロータリー・クラブの会員であるというだけでなく、会員をまことのロータリアンとする実践行動によって、奉仕の冒険に果敢に挑んで来たのであります。この「行動する」ロータリアンは、未来の形成に寄与する自らの力を信じて、人間の必要とするものを満たそうと、その手をさし伸べるのであります。

超私の奉仕ということは、ありふれた理念ではありません。

同情、友情、理解といったものに乏しい世界にあつては、奉仕という理念はまれにみる貴重なものであつて、われわれがそのために時間と能力を費やし、

そのために自分のすべてを捧げるだけの価値のあるものであります。そこで皆さん、他人のために奉仕の手をさし伸べようではありませんか。われわれは全力を尽そうではありませんか。

来るべき年度において、私の祈りは同時に皆さんの祈りでもあると思います。が……その祈りとは、ヘレン・ケラーが次のような言葉で述べているものであります。「われわれの祈るべきことは、自分の力にふさわしい任務が与えられることではなくて、自分の任務にふさわしい力……われわれの心の扉を永遠に叩きつづける大きな望みを抱いて前進する力が与えられることでなければならない。」

手をさし伸べよう.. REACH OUT...

職場で。 自分の従業員、顧客、同僚、競争業者、供給業者にロータリーの奉仕の理想を伝えよう。仲間のロータリアンに、自分の職業上の高い道徳的目標を示そう。職業指導その他のプログラムを通じて、若者たちが、終生、有意義な仕事をやり抜き、市民としてよりっぱにその責任を果していけるように、準備をさせるようにしよう。

会場で。 関心の薄れてきている会員がクラブ奉仕に対する意欲を取り戻すように激励しよう。新しい会員に友情の手をさし伸べよう。そして「行動する」ロータリアンとなるようにその人たちを励まし、力づけよう。会員に推薦したいと思っている人たちに、自分のロータリーに対する熱意を伝えよう。その人たちに、われわれの「奉仕の冒険」に加わ

るように勧めよう。

街に出て。 自分の地域社会で対策の必要に迫られている問題を見つけ、その解決に当ろう。老人には理解と関心を、青少年には指導と激励を。インターアクト、ローターアクト、RYLAによって、若い人たちが奉仕に参加できる機会を与えよう。思い切ってやってみよう。たとえ力不足と思っても。

広く世界で。 人と人ががじかに接触して互いに理解しあい、信頼しあうような空気をつくり出そう。ロータリー財団、青少年交換、組み合わせ地区およびクラブ・プログラム、ならびに世界社会奉仕を通じて、あらゆる国の人々に手をさし伸べよう。

レスヌーフ氏は1973年に退職するまで、ナンバーにあるレスヌーフ・クラーク会計事務所の共同出資者であった。氏はオーストラリアのイングハムで生れ、オーストラリアのチャーターズ・タワーズにあるソーンバー大学の出身である。氏は、公認秘書協会の准会員であり、またオーストラリア会計士協会の会員で、同協会の州委員会の委員としても活躍した。氏は1949年(昭和24年)以来のロータリアンで、現在、ナンバー・ロータリー・クラブの会員で、同クラブの元会長である。レスヌーフ氏は、地区ガバナー、各種委員会委員長、委員及び理事を歴任して、国際ロータリーに貢献している。